

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K08044

研究課題名（和文）疾患コホートをを用いた22q11.2欠失症候群の表現型の追跡とゲノムバリエーション探索

研究課題名（英文）Phenotypic tracing and genomic variant discovery in 22q11.2 deletion syndrome using a disease cohort

研究代表者

小川 しおり（Ogawa, Shiori）

日本福祉大学・教育・心理学部・准教授

研究者番号：60814150

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では口唇口蓋裂の総合的治療のため愛知学院大学歯学部を受診し、22q11.2欠失症候群を認める患者について、名古屋大学精神医学・親と子どもの心療科分野にて中間表現型を含めた長期追跡を行った。神経発達症や精神疾患につき臨床心理士と精神科医によるスクリーニングおよび経過観察を早期介入と予後改善に役立てた。これまでの研究業績については「22q11.2欠失症候群児童の発達行動特性」「22q11.2欠失症候群児童の親子関係に関する検討」として学会発表している。2023年には国際学会（ASCAPAP）にて報告を行い論文作成に着手した。さらに分担研究者1名がADI-Rリサーチライセンスの取得に成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

22q11.2欠失症候群は、多系統の身体障害の他に統合失調症の最大のリスクファクターであり、神経発達症を含む多彩な精神障害を高率に伴う。本研究では我々が構築した疾患コホートをを用いた同症候群の精神医学的併存症の前方視的追跡と早期徴候の把握を通して病態理解に寄与し、発見-診断-予後予測-治療体制確立への論理的基盤を築いた。すでに多診療科縦断的な遺伝性疾患への対応として、神経線維腫症1型（NF1）に関してNF1診療ネットワークが院内で運用されており、本研究の知見を活かして22q11.2欠失症候群など他の遺伝性疾患についてもネットワーク体制構築による診療連携強化を行っていくことが可能となる。

研究成果の概要（英文）：In this study, patients with 22q11.2 deletion syndrome who underwent comprehensive treatment for cleft lip and palate at department of dentistry, Aichi Gakuin University were followed over time, including the evaluation and observation of intermediate phenotypes. Screening and follow-up by clinical psychologists and psychiatrists for neurodevelopmental and psychiatric disorders were employed for early intervention and prognostic improvement. The total cohort was 18 patients, and the research results were presented at the 63rd Annual Meeting of the Japanese Association of Child and Adolescent Psychiatry as "A Study of the Parent-Child Relationship of Children with 22q11.2 Deletion Syndrome: Towards Supporting Parents and Children Based on Emotional Aspects of the Mother-Child Relationship". Research outcomes were also presented at an international conference (ASCAPAP) in 2023. One of the co-investigators succeeded in obtaining an ADI-R research license.

研究分野：児童青年精神医学

キーワード：22q11.2欠失症候群 精神医学的併存症 ゲノムバリエーション 疾患コホート 前方視的追跡

### 1. 研究開始当初の背景

22q11.2 欠失症候群は、22 番染色体長腕(22q11.2)領域の 1.5 Mbp～3 Mbp のヘテロ微細欠失によって生じ、特異顔貌、先天性心疾患(発現率 75%)、免疫不全(40%)、鼻咽頭閉鎖不全や口唇口蓋裂(70%)、低カルシウム血症(60%)、甲状腺機能異常(25%)に加え、統合失調症が 30%、自閉スペクトラム症(ASD)が 15%に併存するなど、精神障害との関連が濃密である(図 1)。90%以上は親が同一変異を有しない *de novo* 変異であり、2～4 千人に 1 人と染色体欠失症候群で最も頻度が高く、平均寿命は 40 歳に留まる。平成 27 年には、最も頻度の高い指定難病の一つとして組み入れられ、病態の解明と医療の拡充が求められている。本症候群の医療は、小児心臓血管外科、小児科(内分泌、免疫)形成外科、口腔外科、精神科などにわたり、診療科横断的な医療体制が求められるが、臨床において特に精神科との連携・介入ができる医療施設はいまだ限られている。また、身体疾患、精神障害の発現率は高率とはいえ、精神症状を含む表現型は様ではなく各人で多様である。加えて精神症状に関し、幼少期に ASD、注意欠如・多動症(ADHD)、不安症、青年期以降には統合失調症と発達段階的に変化する。しかし 22q11.2 欠失症候群患者の臨床経過の大規模な前方視的な追跡研究は乏しく、詳細な精神医学的病態との関連は不明である。その一因として、我が国では、22q11.2 欠失症候群は主として心疾患や口蓋裂などの先天性疾患として認識され、多科横断的な診療体制が整っていないため、併存する精神障害への発見や対応が不十分な点が挙げられる。この問題を解決する為には、精神科を含めた多科連携体制の構築と、それによる精神症状の発生・進行の全体像の解明が急務であると考えた。



図1 22q11.2 欠失症と精神科における課題

### 2. 研究の目的

本研究は、愛知学院大学歯学部・言語治療外来部門、同学歯学部先天異常遺伝学・言語学講座寄附講座・口腔先天異常学研究室と名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野による多科連携体制を構築し(図 2)、口唇口蓋裂の総合的治療のために外来を受診し、22q11.2 欠失症候群を認める患児/者について、中間表現型を含めた長期追跡を行ったユニークな試みとして位置づけられる。具体的には、新たに構築した患者コホートで、患者のゲノム情報に加え、認知機能を合わせて評価し、ゲノム変異から神経発達症および精神障害の発症やその経過を明らかにすることで、将来の病態及び予後予測をする方法論の探索を目的とした。とりわけ ASD をはじめとした障害について、臨床心理士・精神科医による精神障害のスクリーニングおよび経過観察が早期介入に繋がり、予後改善に寄与するものであることを実証する。

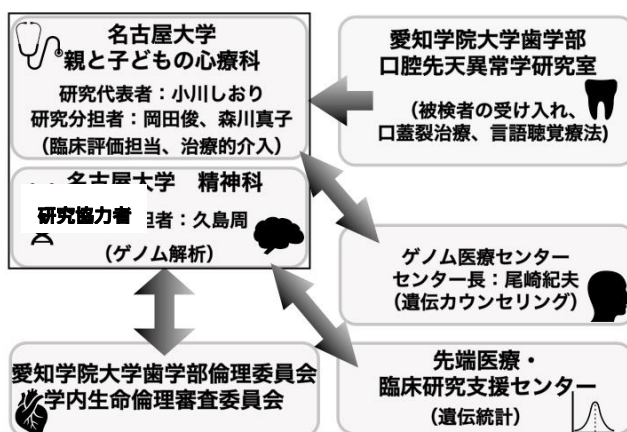


図 2 本研究の研究体制

\* なお、研究期間途中より山内彩臨床心理士が研究分担者に加わり臨床評価を担当した。また森川医師が異動により研究分担者から外れた。

### 3. 研究の方法

倫理的配慮として名古屋大学医学部生命倫理審査委員会および愛知学院大学歯学部倫理委員会・同学部ヒト細胞組織遺伝子疫学情報倫理委員会において承認された事項に則り、被験者に書面による説明を行い書面で同意を得ること、被験者の個人情報保護を厳重に励行した。本人・家族に疾患の解析における遺伝子解析および精神発達の評価の必要性と内容について十分説明したのち口頭ならびに文書で依頼し、対象者が未成年のため保護者に同様の説明を行い保護者の署名を得た。FISH法およびアレイCGH法を用いて22q11.2欠失症候群の確定診断を受けた18例について精神症状の評価には、一般面接による疾患の抽出に加え、以下の定量的検査法を施行。いずれも本人・養育者からの聞き取り・行動観察・構造化面接等により臨床所見に基づいたスコアを得てカットオフ値と比較するものである。評価のスケジュールを図3に示す。

1. 個別式知能検査（ウェクスラー式知能検査等）、患児の個別式認知機能検査：K-ABC-
2. 養育者への面接：Vineland- 適応行動尺度；養育者への発達歴聴取：ADI R、
3. 患児の行動観察：ADOS-2
4. 養育者および患児の自閉スペクトラム傾向の把握：対人応答尺度 SRS P, SRS A
5. 統合失調症および気分障害の精神医学的診断の構造化面接：K-SADS
6. 発達障害児の反復的行動の種類・量とその問題の程度：RBS-R
7. 感覚刺激への反応傾向：SP 感覚プロファイル
8. 子どもの情緒と行動の包括的評価：CBCL

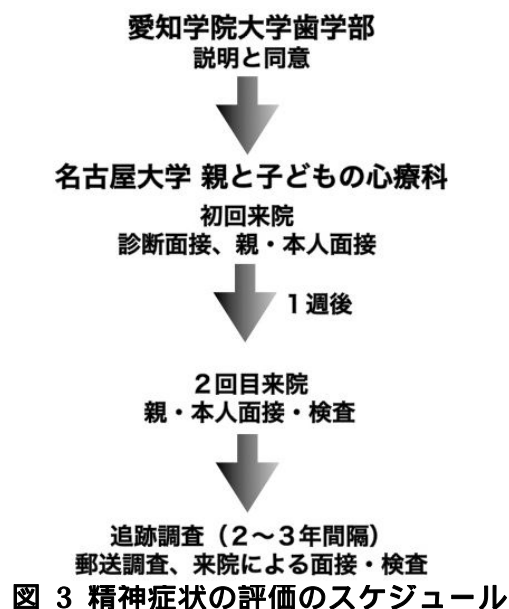
患児に対して行う ADOS-2 は、標準化された検査器具や質問項目を用いて自閉スペクトラム症の診断に役立つ社会的行動やスキル・コミュニケーションを引き出すように作られた半構造化観察検査である。DSM の診断モデルに基づく判定だけでなく、領域ごとの行動特徴を把握し症状の程度を得点化して評価することが可能となった。

#### 4. 研究成果

患児の評価結果解析より、身体合併症（心疾患、咽頭・口蓋形成異常、耳鼻科系疾患、泌尿器系疾患など）に加えて、知的能力および適応機能は全体の8割で平均水準を下回っていた。自閉症診断観察尺度（ADOS-2）による横断像では80%がASD特性を示し、SP 感覚プロファイルにて感覚特性を高率に示した。そのうち86.7%は感覚処理の「低登録（消極的反応・高閾値）」タイプに該当し、他の感覚特性との重複も40%でみられるなど、日常生活への適応に支障を来す大きな要因となっていることが示唆された。親子関係のプロフィールについては、患児のもつ知的障害・適応上の障害およびコミュニケーションの困難さが母子間の認識の不一致や母親の育児不安傾向につながっていることが明らかとなった。このように認知発達・行動に関する臨床像と成長発達過程について、あわせて支援方法の検討および親子関係の情緒的側面をふまえた親子支援の可能性について、研究成果について2020年度から毎年コンスタントに学会発表を行うことができた。論文作成については引き続き進めていく予定である。

研究の限界として、当初想定していた組み入れ数50例を下回りコホートが18例にとどまったことである。患者のファーストタッチとしての受け入れ機関のリクルート担当者の一時交代による停滞、その後のCOVID-19パンデミック下での受診控えや通院中断、医療機関側の感染症対応のため通常の診療体制縮小を余儀なくされた期間があったことの影響も受けた。研究代表者および研究分担者の異動もあったが、密に連携を取って丁寧にフォローアップ面接の調整、検査・評価を遂行できたことは特記すべきであると考えられる。研究対象者（親子）に対しては、ベースラインの評価とその後の発達の経過観察、専門医の診察と心理士の評価・フィードバックを得ることで、症状コントロールおよび生活上の困難の緩和、親子関係の悪化予防に役立った。今後も研究協力者により外来での経過観察（必要なケースについては治療）を継続し、成人期に向けて精神疾患の発症の早期発見に留意してフォローしていく。

小川（研究代表者）は、本研究から得られた知見も活かして「感染症流行下等の社会的な環境変化による子どもの心身への影響の評価方法及び対処法の確立に向けた研究」（子ども家庭庁）にも取り組んできた。臨床としては療育センターの児童精神科外来および病棟にて診療を提供するとともに診断・評価を実施し、また教育委員会委嘱の任務（学校精神科医、市教育相談センター等）を通して発達障害に関連する行政の施策に寄与してきた。分担研究者も含め、



チーム全員が広く神経発達症を持つ子どもと家族の理解と支援に関わる論文や講演、発表等も数多く実施しており、この5年間での医療者の発達障害（とくに身体疾患に伴うもの）への認識の広まりや診療科横断的対応の円滑化に貢献した。発達段階やライフステージに応じた心理社会的介入については、今後の研究において更なる検討を要する。患者本人および家族を対象とした心理教育プログラム開発と検証や啓蒙活動の継続は欠かせないだろう。またすでに多診療科縦断的な遺伝性疾患への対応の一つとして、神経線維腫症1型（NF1・レックリングハウゼン病）に関してNF1診療ネットワークが院内で運用されており、本研究の成果をもとに22q11.2欠失症候群など他の遺伝性疾患についてもネットワーク体制構築による診療連携強化を行っていく。

<参考文献> Itaru Kushima, et al., Cross-disorder analysis of genic and regulatory copy number variations in bipolar disorder, schizophrenia, and autism spectrum disorder, *Biol Psychiatry*. 2022 Sep 1;92(5):362-374.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計71件（うち査読付論文 30件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 木村 唯子, 大森 まゆ, 岡田 俊, 金生 由紀子, 開道 貴信, 梶田 泰一, 上村 鋼平, 岩崎 真樹	4. 巻 61
2. 論文標題 重度かつ難治のトゥレット症候群に対する脳深部刺激療法の効果に関与する因子	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 機能的脳神経外科	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 小百合, 江頭 優佳, 魚野 翔太, 岡田 俊	4. 巻 57
2. 論文標題 注意欠如・多動症における社会的報酬の報酬頻度が実行機能に与える影響の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治安田こころの健康財団研究助成論文集	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊、江頭優佳	4. 巻 63
2. 論文標題 【外来で診る発達障害—基礎知識&よくある相談への対応—】運動が苦手・不器用 「走るのが遅い」「よく転ぶ」「はさみを使うのが苦手」など	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児科	6. 最初と最後の頁 1267-1271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18888/sh.0000002348	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 31
2. 論文標題 発達障害の治療 自閉スペクトラム症と併存症の位置づけと二次障害の成り立ち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本社会精神医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 357-361
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川しおり、岡田俊	4. 巻 124
2. 論文標題 ICD-11における神経発達症群の診断について 知的発達症,発達性発話又は言語症群,発達性学習症など	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 732-739
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 151
2. 論文標題 小児期によくみられる精神疾患 注意欠如・多動症	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医師会雑誌	6. 最初と最後の頁 169-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 54
2. 論文標題 【発達障害への多様な支援～あれが知りたい・これも知りたい～】さまざまな支援の場 思春期以降の支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児内科	6. 最初と最後の頁 1144-1147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 54
2. 論文標題 小児期ADHDの心理社会的治療 注意欠如・多動症(ADHD)の心理教育と親ガイダンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 脳と発達	6. 最初と最後の頁 S144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 5133
2. 論文標題 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害(ASD)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 64
2. 論文標題 【精神科診療のピットフォール】疾患各論 発達障害 自閉スペクトラム症(成人)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 719-723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1405206649	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 51
2. 論文標題 注意欠如・多動症(ADHD)がある児童・成人の治療ゴールにつながる評価法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 659-662
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii-Takahashi A, Okada T, Kano Y, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Changes in child behavioral problems and maternal attachment towards children with attention-deficit/hyperactivity disorder following behavioral parent training: A pilot study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyake N, Okada T, Matsumoto N, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Molecular diagnosis of 405 individuals with autism spectrum disorder	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji N, Okada T, Saito T, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Decision aid development and its acceptability among adults with attention deficit/hyperactivity disorders regarding treatment discontinuation after remission	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pcn5.57	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kushima I, Okada T, Ozaki N, et al.	4. 巻 92
2. 論文標題 Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biological Psychiatry	6. 最初と最後の頁 362-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biopsych.2022.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Egashira Y, Okada T, Inagaki M, et al.	4. 巻 16
2. 論文標題 Detection of deviance in Japanese kanji compound words	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 913945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2022.913945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Kimura H, Okada T, Sebat J, et al.	4. 巻 12
2. 論文標題 Exome sequencing analysis of Japanese autism spectrum disorder case-control sample supports an increased burden of synaptic function-related genes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-022-02033-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shota Uono, Yuka Egashira, Sayuri Hayashi, Miki Takada, Masatoshi Ukezono, Takashi Okada	4. 巻 13
2. 論文標題 No influence of emotional faces or autistic traits on gaze-cueing in general population	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 864116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.864116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kushima I, Okada T, Ozaki N, et al.	4. 巻 92
2. 論文標題 Cross-disorder analysis of genic and regulatory copy number variations in bipolar disorder, schizophrenia, and autism spectrum disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biological Psychiatry	6. 最初と最後の頁 774
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biopsych.2022.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 小百合, 江頭 優佳, 岡田 俊	4. 巻 27
2. 論文標題 報酬はヒトの行動抑制機能を高めるか? 神経心理学的アプローチによる報酬効果の検討と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本生理人類学会誌	6. 最初と最後の頁 38-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20718/jjpa.27.2_38	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shota Uono, Yuka Egashira, Sayuri Hayashi, Miki Takada, Masatoshi Ukezo, Takashi Okada	4. 巻 -
2. 論文標題 No influence of emotional faces or autistic traits on gaze-cueing in general population	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sayuri Hayashi, Yuki Nishimura, Yuki Ikeda, Hiroki Nakashima, Yuka Egashira, Masatoshi Ukezo, Shota Uono, Takashi Okada, Shigekazu Higuchi	4. 巻 170
2. 論文標題 Beauty in everyday motion: electrophysiological correlates of aesthetic preference for human walking	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychologia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuropsychologia.2022.108232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Riyo Ueda, Takashi Okada, Yosuke Kita, Masatoshi Ukezo, Miki Takada, Yuri Ozawa, Hisami Inoue, Mutsuki Shioda, Yoshimi Kono, Chika Kono, Yukiko Nakamura, Kaoru Amemiya, Ai Ito, Nobuko Sugiura, Yuichiro Matsuoka, Chinami Kaiga, Yasuko Shiraki, Masaya Kubota, Hiroshi Ozawa	4. 巻 12
2. 論文標題 Quality of life of children with neurodevelopmental disorders and their parents during the COVID-19 pandemic: A one-year follow-up study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 4298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chenyao Wang, Takashi Okada, Sayaka Takemoto-Kimura, Norio Ozaki, et al	4. 巻 12
2. 論文標題 Identification of ultra-rare disruptive variants in voltage-gated calcium channel-encoding genes in Japanese samples of schizophrenia and autism spectrum disorder	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-022-01851-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukako Nakamura, Nagahide Takahashi, Aya Yamauchi, Mako Morikawa, Takashi Okada, Norio Ozaki	4. 巻 12
2. 論文標題 Perceived social support partially mediates the impact of temperament and character on postpartum depression	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2021.816342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ai Aoki, Michi Niimura, Tsuguhiko Kato, Kenji Takehara, Junzo Iida, Takashi Okada, Tsunehiko Kurokami, Kengo Nishimaki, Kaeko Ogura, Masakage Okuno, Tatsuya Koeda, Takashi Igarashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Trajectories of healthcare utilization among children and adolescents with autism spectrum disorder and/or attention-deficit/hyperactivity disorder in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2021.812347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamasue H, Takashi Okada, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 Effect of a novel nasal oxytocin spray with enhanced bioavailability on autism: A randomised trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Brain	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/brain/awab291	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Riyo Ueda, Yoshimi Kaga, Yosuke Kita, Eiji Nakagawa, Takashi Okada, Masumi Inagaki	4. 巻 21
2. 論文標題 Clinical profile of reading ability and reading and writing achievement of children with borderline full-scale intellectual quotient: a prospective study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Pediatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12887-021-02865-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maya Sato, Takashi Okada, Mako Morikawa, Yukako Nakamura, Aya Yamauchi, Masahiko Ando, Norio Ozaki	4. 巻 11
2. 論文標題 Validation and factor analysis of the parental bonding instrument in Japanese pregnant women	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-93146-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Riyo Ueda, Takashi Okada, Yosuke Kita, Yuri Ozawa, Hisami Inoue, Mutsuki Shioda, Yoshimi Kono, Chika Kono, Yukiko Nakamura, Kaoru Amemiya, Ai Ito, Nobuko Sugiura, Yuichiro Matsuoka, Chinami Kaiga, Masaya Kubota, Hiroshi Ozawa	4. 巻 11
2. 論文標題 The quality of life of children with neurodevelopmental disorders and their parents during the Coronavirus disease 19 emergency in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-82743-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuhiko Kato, Hitoshi Kuwabara, Takashi Okada, Toshio Munesue, Seico Benner, Miho Kuroda, Masaki Kojima, Walid Yassin, Yosuke Eriguchi, Yosuke Kamenno, Chihiro Murayama, Tomoko Nishimura, Kenji Tsuchiya, Kiyoto Kasai, Norio Ozaki, Hirotaka Kosaka, Hidenori Yamasue	4. 巻 12
2. 論文標題 Oxytocin-induced increase in N,N-dimethylglycine and time course of changes in oxytocin efficacy for autism social core symptoms	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular Autism	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13229-021-00423-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato H, Kushima I, Yoshimi A, Ishizuka K, Kimura, H, Aleksic B, Takahashi N, Okada T, Ozaki N	4. 巻 76
2. 論文標題 Autism Spectrum Disorder Comorbid with Obsessive Compulsive Disorder and Eating Disorder in a Woman with NBEA Deletion	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13309	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Riyo Ueda, Takashi Okada, Yosuke Kita, Yuri Ozawa, Hisami Inoue, Mutsuki Shioda, Yoshimi Kono, Chika Kono, Yukiko Nakamura, Kaoru Amemiya, Ai Ito, Nobuko Sugiura, Yuichiro Matsuoka, Chinami Kaiga, Masaya Kubota, Hiroshi Ozawa	4. 巻 12
2. 論文標題 Psychological status associated with low quality of life in school-age children with neurodevelopmental disorders during COVID-19 stay-at-home period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2021.676493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 81
2. 論文標題 うつ病、双極性障害の児童生徒への気づきと対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 LD. ADHD & ASD	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊, 今村明, 齊藤卓弥	4. 巻 10
2. 論文標題 注意欠如・多動症と気分障害の併存と鑑別	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Depression Journal	6. 最初と最後の頁 4-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 25
2. 論文標題 早期発症統合失調症の薬物療法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 241-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 37
2. 論文標題 精神疾患の背景にある神経発達症に關しての今日的理解	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 280
2. 論文標題 ADHDの診断と診断ツール	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 138 - 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 123
2. 論文標題 養育者のメンタルヘルスと子どもの心理的・情緒的発達	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 740-745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 20
2. 論文標題 ADHDの小児期から成人期をめぐってー診断の位置づけ、うつ病等の併存障害の意味を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京こころのクリニック	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 50
2. 論文標題 ADHDの長期的展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 1245-1249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 36
2. 論文標題 子どもへの薬物療法を実施する上で踏まえるべき臨床精神薬理学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1121-1126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 24
2. 論文標題 COVID-19が児童・青年のメンタルヘルスに与える影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 1011-1016
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 24
2. 論文標題 注意欠如・多動症治療薬の出口戦略	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 961-965
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 62
2. 論文標題 児童青年領域におけるレジストリの構築（指定発言）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 児童青年精神医学とその近接領域	6. 最初と最後の頁 592-593
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 24
2. 論文標題 神経発達症における維持治療：実践的な続け方とやめ方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 731-736
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 63
2. 論文標題 神経発達症における強迫	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 891-896
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 50
2. 論文標題 成人期ADHDの薬物療法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 423-428
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Yamasue H, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Owada K, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H	4. 巻 25
2. 論文標題 Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: a randomized clinical trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Molecular Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1849 ~ 1858
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-018-0097-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishizuka K, Yoshida T, Kawabata T, Imai A, Mori H, Kimura H, Inada T, Okahisa Y, Egawa J, Usami M, Kushima I, Morikawa M, Okada T, Ikeda M, Branko A, Mori D, Someya T, Iwata N, Ozaki N.	4. 巻 12
2. 論文標題 Functional characterization of rare NRXN1 variants identified in autism spectrum disorders and schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Neurodevelopmental Disorders	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s11689-020-09325-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nawa Y, Kimura H, Mori D, Kato H, Toyama M, Furuta S, Yu Y, Ishizuka K, Kushima I, Aleksic B, Arioka Y, Morikawa M, Okada T, Inada T, Kaibuchi K, Ikeda M, Iwata N, Suzuki M, Okahisa Y, Egawa J, Someya T, Nishimura F, Sasaki T, Ozaki N.	4. 巻 7
2. 論文標題 Rare single-nucleotide DAB1 variants and their contribution to Schizophrenia and autism spectrum disorder susceptibility	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Genome Variation	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41439-020-00125-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueda R, Kaga Y, Kita Y, Tanaka M, Iwasaki M, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Sasaki M, Okada T, Inagaki M.	4. 巻 2
2. 論文標題 Postoperative improvement of executive function and adaptive behavior in children with intractable epilepsy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Brain Dev.	6. 最初と最後の頁 280-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2020.08.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato H, Kushima I, Morikawa M, Okada T, Ozaki N, et al.	4. 巻 10
2. 論文標題 Rare genetic variants in the gene encoding histone lysine demethylase 4C (KDM4C) and their contributions to susceptibility to schizophrenia and autism spectrum disorder	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-020-01107-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 26
2. 論文標題 自閉スペクトラム症と不安	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 139-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 38
2. 論文標題 自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症の併存	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 319-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 24
2. 論文標題 ASDに対する新たな研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊、永田利彦、西園マーハ文	4. 巻 8
2. 論文標題 食行動の異常と抑うつ；うつ病診療のUpdate	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Depresssion Journal	6. 最初と最後の頁 68-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 35
2. 論文標題 自閉スペクトラム症と併存症の連続性と関連性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤萌水、森川真子、岡田俊	4. 巻 62
2. 論文標題 エジンバラ産後うつ病自己評価票を用いた産婦健診からの妊産婦のメンタルヘルス支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1215-1223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 184
2. 論文標題 ADHDの病態・診断・治療：成人期も含めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 熊精協会誌	6. 最初と最後の頁 10-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 37
2. 論文標題 リスデキサンフェタミンの臨床	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 62-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 23
2. 論文標題 真のエンドポイントに近づくためにはどうすべきか? : 神経発達症群	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神薬理	6. 最初と最後の頁 523-527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 49
2. 論文標題 注意欠如・多動症の脳画像解析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 487-492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田純一、宇佐美正英、岡田俊、辻井農亜、根来秀樹、飯田順三、齊藤卓弥	4. 巻 61
2. 論文標題 児童・青年への抗精神病薬の代謝・内分泌系リスクと求められる副作用モニタリングスケジュール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 児童青年精神医学とその近接領域	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 122
2. 論文標題 神経発達症に伴う不安と神経発達症の二次障害としての不安症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 290-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江頭優佳、岡田俊	4. 巻 25
2. 論文標題 注意欠如・多動症における時間知覚の最新知見	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本生理人類学会誌	6. 最初と最後の頁 109-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川しおり	4. 巻 45
2. 論文標題 児童期の不安(子どもの不安、親の不安)を扱う	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 654-658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shishido E, Ogawa S, Miyata S, Yamamoto M, Inada T, Ozaki N	4. 巻 39
2. 論文標題 Application of eye trackers for understanding mental disorders: Cases for schizophrenia and autism spectrum disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsujii N, Okada T, Usami M, Kuwabara H, Fujita J, Negoro H, Kawamura M, Iida J, Saito T	4. 巻 81
2. 論文標題 Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Clinical Psychiatry	6. 最初と最後の頁 e1-e11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4088/JCP.19r13015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Owada K, Okada T, Ozaki N, Yamasue H (他25名2番目)	4. 巻 142
2. 論文標題 Quantitative facial expression analysis revealed the efficacy and time course of oxytocin in autism.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Brain	6. 最初と最後の頁 2127-2136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/brain/awz126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田俊	4. 巻 107
2. 論文標題 ASD (自閉症スペクトラム障害) の臨床症状と診断	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 診断と治療	6. 最初と最後の頁 1329-1334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計55件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 山内彩、岡田俊
2. 発表標題 22q11.2欠失症候群児童の親子関係に関する検討 母子の情緒的側面を踏まえた親子支援を目指して
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 薬物療法の開始と終了 エビデンス、ガイドラインと臨床実践 神経発達症に対する抗精神病薬のエビデンスと薬物療法の適正化
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 神経発達症の子どもとトラウマ 自閉スペクトラム症とトラウマ反応
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 コロナ禍におけるこどものメンタルヘルス 神経発達症のこどもを中心に
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症における心理社会的治療の有用性と課題
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 アジア児童青年精神医学会ASCAPAP2023in Kyotoの企画にあたって
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症（ADHD）の病態と臨床
3. 学会等名 BPCNP4学会合同年会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症治療の臨床エビデンスと本邦ガイドライン
3. 学会等名 BPCNP4学会合同年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 COVID-19感染拡大下における子どものメンタルヘルス
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 妄想形成・不安と神経発達症特性
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 「チーム学校」における虐待が疑われる児童生徒の気づきと支援
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川しおり
2. 発表標題 ゲーム依存に関する教育・心理系の大学生を対象としたアンケート調査
3. 学会等名 第127回小児精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小川しおり
2. 発表標題 大学生のゲーム使用と学生生活の充実度
3. 学会等名 愛知児童青年精神医学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症における心理社会的治療の有用性と課題
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム 100 精神療法が必須な精神障害にガイドラインはどこまで有効か）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 COVID-19感染拡大における子どものメンタルヘルス
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会（新型コロナウイルス感染症拡大下における子どもと家族 精神医学に何ができるか）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 妄想形成・不安と神経発達症特性
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム 78 臨床的に重要な状態の背後にある神経発達症特性をいかに見立て、治療に活かすか）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 「チーム学校」における虐待が疑われる児童生徒の気づきと支援
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム 67 児童虐待に取り組む精神科医療の現在）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 ADHDと大人の精神保健
3. 学会等名 日本ADHD学会第13回総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 成人期ADHDの心理教育と支持的精神療法を再考する
3. 学会等名 日本ADHD学会第13回総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林小百合，江頭優佳，魚野翔太，高田美希，請園正敏，岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症の成人では 実行機能に対する社会的報酬の効果が減弱している
3. 学会等名 日本ADHD学会第13回総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山内彩，岡田俊，尾崎紀夫
2. 発表標題 22q11.1欠失症候群患者の認知発達・行動に関する臨床像と支援二ードの検討
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田美希, 細金奈奈, 木原望美, 小平雅基, 岡田俊
2. 発表標題 親子相互交流療法 (PCIT) の治療中断に関するエビデンスレビュー
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 子どもの睡眠とその障害
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会 (薬事委員会セミナー) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 COVID-19感染拡大下の子どもと養育者のメンタルヘルス
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会 (シンポジウム5) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 ADHDの診断と治療を巡る課題：現状と近年の知見を踏まえて 岡田俊
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会 (共催セミナー2)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 自閉スペクトラム症と不安、こだわり-摂食障害とのつながり(教育講演)
3. 学会等名 第24回日本摂食障害学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 神経発達症と併存症
3. 学会等名 第126回日本小児精神神経学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣貴彦, 上野千穂, 岡田俊, 小野善郎
2. 発表標題 本邦の医療状況に即した子どものうつ病臨床の最適化への提言
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 小百合, 江頭 優佳, 魚野 翔太, 岡田 俊
2. 発表標題 社会的報酬を用いたフィードバックの確実性が行動抑制に与える影響
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田 俊, 上田理誉
2. 発表標題 COVID-19感染拡大下における発達障害のある子の不安・抑うつと育児ストレス（シンポジウム 抑うつ発達の理解と抑うつを抱える養育者の支援を考える）
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会（シンポジウム）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hayashi S, Nishimura Y, Ikeda Y, Egashira Y, Ukezono M, Uono S, Okada T, Higuchi S
2. 発表標題 Investigation of effects of the aesthetic preference on the perception of human walking: a preliminary study using event-related potentials
3. 学会等名 Neuroscience（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Egashira Y, Hayashi S, Ukezono M, Uono S, Kaga Y, Kitamura Y, Kita Y, Yamashita Y, Okada T, Inagaki M
2. 発表標題 A closer look at impairments of time perception function in individuals with attention-deficit/ hyperactivity disorder
3. 学会等名 Neuroscience（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Okada T, Uno Y
2. 発表標題 Intranasal oxytocin reduces facial affect misrecognition between disgusted angry faces in adults with autism spectrum disorders.
3. 学会等名 Neuroscience（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ueda R, Iwasaki M, Kita Y, Takeichi H, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Okada T, Sasaki M
2. 発表標題 Improvement of brain function after surgery in infants with posterior quadrant cortical dysplasia
3. 学会等名 AES 2021 ANNUAL MEETING (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉本 哲, 近藤怜苑, 小川しおり
2. 発表標題 小児の精神疾患患者の社会復帰評価について、統合失調症の1例による考察
3. 学会等名 第180回東海精神神経学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山内彩, 岡田俊, 尾崎紀夫
2. 発表標題 22q11.2欠失症候群児童の発達行動特性－ベースライン調査に基づく検討－
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川しおり, 野邑健二
2. 発表標題 COVID-19 対策による休校期間中のストレスにより自殺企図に至った思春期女子の2例
3. 学会等名 愛知児童青年精神医学会第12回学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 発達障害と精神医学
3. 学会等名 愛知児童青年精神医学会第12回学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 成人期AD/HDの診断
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 自閉スペクトラム症と二次障害のなりたち
3. 学会等名 第11回自閉症学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症の診断をめぐる問題点と、その異種性、特に気分障害の併存をめくって
3. 学会等名 第30回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 辻井農亜, 岡田俊, 宇佐美政英, 藤田純一, 根来秀樹, 飯田順三, 齊藤卓弥
2. 発表標題 薬物療法により症状が安定した注意欠如・多動症患者において、薬物療法を終了できるのか？
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の対人認知と二次障害のなりたち
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 抗ADHD薬のmisuseとabuseの現状について－日本と諸外国－
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症の啓発と精神医療化
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 母親のメンタルヘルスと子どもの心理的・情緒的発達 of 相互作用
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田 俊, 辻井農亜, 宇佐美政英, 藤田純一, 根來秀樹, 桑原秀徳, 飯田順三, 齊藤卓弥
2. 発表標題 寛解後にADHD治療薬を継続するか中止するか: 患者との共同意思決定のための出口戦略ガイドライン
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 難治性トゥレット症をいかに定義し、いかに対処するか
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻井農亜, 岡田俊, 宇佐美政英, 桑原秀徳, 藤田純一, 根來秀樹, 川村路代, 飯田順三, 齊藤卓弥
2. 発表標題 薬物療法により症状が安定したADHD患者において、薬物療法 of 中止はADHD症状を再発させるのか?
3. 学会等名 NPBPPP2020合同年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 精神刺激薬の導入と中止：診断・評価、治療選択における留意点について
3. 学会等名 NPBPPP2020合同年会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 注意欠如・多動症の「診断」と「治療」の意味を再考する
3. 学会等名 第62回日本小児神経学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森川真子
2. 発表標題 妊産婦のメンタルヘルスの実態と支援の方向性
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村大樹，藤田幸，川端猛，石塚佳奈子，Chenyao Wang，岩山佳美，岡久祐子，久島周，宇野洋太，岡田 俊，森川真子，森 大輔，池田匡志，稲田俊也，Branko Aleksic，吉川武男，岩田仲生，中村春木，山下俊英，尾崎紀夫
2. 発表標題 統合失調症発症に強い影響を及ぼす，頻度の低い稀な遺伝子変異を22q11.2欠失領域に存在するミエリン関連遺伝子のRTN4R1に同定した
3. 学会等名 第41回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田俊
2. 発表標題 自閉スペクトラム症と併存症のつながりとつらなり-不安、抑うつ、強迫
3. 学会等名 第60回日本児童青年精神医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川しおり
2. 発表標題 発達障害の子どもの育ちを支えるアプローチ
3. 学会等名 愛知県青い鳥医療療育センター第4回地域療育研修会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2023年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 25
3. 書名 脳研究から見えてきた注意欠如・多動症(ADHD)の病態－最新知見から発達障害としての本態を捉える(「心の病」の脳科学(林朗子、加藤忠史 編))	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 143
3. 書名 発達障害のある子を育てるには(解説)(In シンママのはじめて育児は自閉症の子でした(まる著))	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 KTC中央出版	5. 総ページ数 34
3. 書名 人口動態と子ども (In 日本子ども資料年鑑2023 愛育研究所 編)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 じほう	5. 総ページ数 115
3. 書名 わが国で使用可能なADHD治療薬4剤の特性および効果に関するエビデンス、ADHDの薬物療法について(注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン第5版〔齊藤万比古、飯田順三編〕)	

1. 著者名 岡田俊、青木 省三・福田正人(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 400
3. 書名 自閉スペクトラム症-その本態は何か、当事者の支えとして何が必要か(子どものこころと脳)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 KTC中央出版	5. 総ページ数 34
3. 書名 人口動態と子ども(日本子ども資料年鑑2022)	

1. 著者名 上田理誉, 岡田俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 コロナ禍における発達障害児の親子のQOL(発達障害白書)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 発達障害研究の最前線(発達障害白書)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 912
3. 書名 自閉スペクトラム症(クリニカルガイド小児科 専門医の診断・治療)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学樹書院	5. 総ページ数 200
3. 書名 自閉スペクトラム症をめぐる仮説とその検証(精神医学の基盤5 精神医学における仮説の形成と検証 大森哲郎 編)	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 2
3. 書名 2020年版発達障害白書	

1. 著者名 岡田俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 2
3. 書名 こころの治療薬ハンドブック第12版	

1. 著者名 小川しおり	4. 発行年 2019年
2. 出版社 発達障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター）	5. 総ページ数 22
3. 書名 お子さんの発達について心配なことはありますか？～日本で子育てをする保護者の方へ～発達障害児支援における多言語版パンフレット英語版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森川 真子  (Morikawa Mako)  (60783305)	九州大学・医学研究院・共同研究員   (17102)	
研究分担者	岡田 俊  (Okada Takashi)  (80335249)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 知的・発達障害研究部・部長   (82611)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山内 彩  (Yamauchi Aya)  (50881984)	名古屋大学・医学部附属病院・主任臨床心理士    (13901)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	久島 周  (Kushima Itaru)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関